

第1回 仙台市食育推進会議 会議録

開催日時	平成30年7月3日(火) 15:00~17:00
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 第2委員会室
名簿	委員 高澤まき子(会長)、白川愛子、木村一則、沢田石道子、高城みさ、高塚真澄、中村美紀、南文子、宮嶋淳子、矢部サヨ、山形裕昭、渡辺淳子、舩山明夫、岡崎宇紹、佐々木洋 (欠席委員=青沼清一、岩崎薫、田沢克彦、水戸憲夫)
	事務局 櫻井消費生活センター所長、村上健康福祉局次長、石澤保健衛生部長、小林保健衛生部参事兼健康政策課長、山本生活衛生課長、山田子供保健福祉課長、綾部運営支援課長、高橋廃棄物事業部参事兼廃棄物企画課長、横山農林部長(委員代理)、嶋田農政企画課農食ビジネス推進室長(代理出席)、山田中央卸売市場業務課長、佐藤青葉区家庭健康課長、深瀬泉区衛生課長、西崎健康教育課長、田中生涯学習課長、佐野健康政策課主幹兼健康増進係長(司会進行)

発言者等	発言内容
進行	<p>&lt;1. 開会&gt;                      それでは、定刻になりましたので、ただいまより平成30年度第1回仙台市食育推進会議を開催いたします。                      本日、司会を務めさせていただきます健康政策課の佐野と申します。よろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>&lt;2. あいさつ&gt;                      初めに、本会議の開催に当たりまして、舩山健康福祉局長よりご挨拶申し上げます。</p>
健康福祉局長	<p>仙台市の健康福祉局長の舩山でございます。                      本日は皆様にはお忙しいところ、それから大変暑い中ご出席いただきまして、本当にありがとうございます。                      また、このたびの委員の改選に当たりましては、ご就任にご快諾をいただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。                      この食育推進会議でございますが、食育を総合的かつ計画的に推進してまいりますため平成18年に設置いたしました。関係団体や事業者の皆様、さらに公募によります市民委員の皆様にも加わっていただきまして、さまざま意見交換をさせていただきながら、本市の取り組みだけではなく幅広い食育活動を進めているところでございます。                      皆様のお手元にお配りをいたしております仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画でございますけれども、昨年度、この会議におきまして多くのご意見、ご提案を頂戴いたしまして、今年の3月に策定をいたしました。                      前期計画におきましては、「食べる力をみんなでアップ!~みんなでおいしくたのしく食べよう~」を基本目標に掲げまして、特に食生活に関して課題が多いと言われております若い世代の方々や子育て世代などを対象とした、取り組みの輪を広げることに力を入れてまいったところでございます。                      この会議でのご議論も踏まえまして、後期計画におきましてもこの基本目標と方向性を引き継ぎ、さらに取り組みを拡充してまいります。</p>

	<p>さらに、国の第3次食育推進基本計画において新たな課題として掲げられました食品ロスの削減という課題につきましても、食の循環や環境を意識した取り組みを推進の柱として盛り込みまして、市民への啓発などを進めてまいり所存でございます。</p> <p>この会議、先ほども申し上げましたように、食育にかかわる多くの皆様にご参加をいただきまして、それぞれの主体的な取り組みの状況、課題などを共有させていただきながら、相互の連携をさらに広げることも一つの役割だと考えてございます。委員の皆様には新たな発想からのご提言なども含めまして、ぜひとも活発なご議論をいただけますように心からお願いを申し上げます。</p> <p>甚だ簡単ではございますが、お願いだけをさせていただいて、私のご挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいいたします。</p>
進行	それでは、健康福祉局長は委員席に移動させていただきます。
進行	<p><b>&lt;3. 委員紹介&gt;</b></p> <p>本日の会議は、本年6月9日に委員任期が改まりましてから初めての開催となります。</p> <p>委嘱状につきましては、机上配付とさせていただいておりますので、ご確認ください。</p> <p>改めまして、今期の委員としてご就任いただきました皆様をご紹介申し上げます。なお、恐縮ではございますが、委員名簿順に紹介をさせていただきたいと存じます。</p> <p>青沼清一様でございますが、本日はご欠席されております。</p> <p>岩崎薫様も同じくご欠席でございます。</p> <p>木村一則様でございます。</p>
木村委員	仙台歯科医師会の木村です。よろしくお願いたします。
進行	沢田石道子様でございます。
沢田石委員	仙台私立幼稚園連合会の役員として参りました宮城学院附属森のこども園の沢田石でございます。よろしくお願いたします。
進行	白川愛子様でございます。
白川委員	宮城大学の白川でございます。どうぞよろしくお願いたします。
進行	高澤まき子様でございます。
高澤委員	仙台白百合女子大学の高澤と申します。よろしくお願いたします。

進行	高城みさ様でございます。
高城委員	仙台市PTA協議会で副会長を務めております高城みさと申します。よろしくお願いいたします。
進行	高塚真澄様でございます。
高塚委員	市民公募の高塚真澄と申します。よろしくお願いいたします。
進行	田沢克彦様は本日ご欠席されております。 中村美紀様でございます。
中村委員	一般公募で参りました中村美紀と申します。料理研究家という仕事をしております。福島からこのたび4月に仙台に越してまいりまして、何かお役に立てないかということでご応募させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。
進行	水戸憲夫様は、本日ご欠席でございます。 南文子様でございます。
南委員	栄養士会の南と申します。よろしくお願いいたします。
進行	宮嶋淳子様でございます。
宮嶋委員	仙台市保育所連合会の役員として参りました。カール英会話ほいくえんの園長をしております宮嶋淳子と申します。よろしくお願いいたします。
進行	矢部サヨ様でございます。
矢部委員	仙台市食生活改善推進員、矢部です。よろしくお願いいたします。
進行	山形裕昭様でございます。
山形委員	みやぎ・環境とくらし・ネットワークから来ました山形と申します。よろしくお願いいたします。
進行	渡辺淳子様でございます。
渡辺委員	宮城県生協連の渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

進行	あわせまして、本市職員の4名が委員に任命されております。 船山健康福祉局長でございます。
健康福祉局長	改めまして船山でございます。どうぞよろしく申し上げます。
進行	岡崎子供未来局長でございます。
子供未来局長	子供未来局の岡崎です。どうぞよろしく申し上げます。
進行	遠藤経済局長でございますが、本日は横山農林部長が代理出席しております。
経済局長（横山農林部長代理出席）	横山でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。
進行	佐々木教育長でございます。
教育長	佐々木でございます。よろしく申し上げます。
進行	皆様、どうぞよろしくお願いいいたします。  <b>&lt; 4. 職員紹介 &gt;</b> 続きまして、本日出席しております市職員を紹介させていただきます。 村上健康福祉局次長でございます。
健康福祉局次長	どうぞよろしくお願いいいたします。
進行	石澤保健衛生部長でございます。
保健衛生部長	よろしくお願いいいたします。
進行	また、関係課職員が出席しております。お手元の市職員出席者名簿をご覧ください。 どうぞよろしくお願いいいたします。 ここで、本日の会議の成立についてお知らせいたします。 現在、16名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立でございます。 引き続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。 お手元の次第を含めまして資料5枚目に会議資料一覧がございますので、そちらをご覧ください。 資料1から3と参考資料につきましては委員の皆様事前に送っております。また、本日の配付資料といたしまして、高澤委員からの資料、産学連携ギ

	<p>フトのカラーの資料、あと水色の仙台食育推進隊の募集のチラシがございます。お手元にご不足の資料はございませんでしょうか。</p> <p>&lt; 5. 議事 &gt;  それでは議事に入りたいと存じます。</p> <p>(1) 会長および会長職務代理者の選任について  本日は委員任期が改まりましてから初めての会議となりますので、まず会長を選任いただきたいと存じます。仙台市食育推進会議条例第5条の規定により、会長は委員の互選により定めることとなっております。皆様からご発言でございますでしょうか。</p>
渡辺委員	高澤委員に引き続きお願いしたいと思います。
進行	ただいま渡辺委員から、高澤委員をご推薦いただきました。皆様、いかがでございますでしょうか。(「異議なし」の声あり) 高澤委員、いかがでしょうか。
高澤委員	よろしくお願ひいたします。
進行	ありがとうございます。それでは恐れ入りますが、高澤委員、会長席にお移りいただきたいと存じます。 それでは、高澤会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願ひいたします。
高澤会長	<p>皆様こんにちは。きょうも非常に暑いさなか、会議にお出ましいたしまして、まことにありがとうございます。</p> <p>昨年は仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画につきまして協議をしまして、今回、食育推進の活動目標が定まりました。後ほどご説明があるかと思ひます。</p> <p>私自身、学生たちが、今、学外実習に出かけておまして、その巡回をしているところがございます。地域によりましては、食育に関しまして非常に温度差がありまして、食に対して非常に積極的な地域もございますけれども、ある地域は子どもの食事にも満足にさせてあげられないという状況があるようでございます。ですから給食だけが頼りだというような小学校の子どもたちがいるということをお聞きしまして、子どもの貧困と子ども食堂というのますます社会問題になってくるのかと思ひているところがございます。皆様とさまざまな情報を共有しつつ、何か解決策が見出されるといいかなと思ひているところがございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。</p> <p>これからの議事進行につきましては会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。</p>
高澤会長	<p>それでは、議事に入りたいと思ひます。委員の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>では、早速でございますけれども、会長職務代理の指名をさせていただきます。</p>

	<p>仙台市食育推進会議条例第5条第3項の規定によりまして、会長であります私が、職務代理者を指名するという事になっております。</p> <p>私といたしましては、宮城大学の白川委員にお願いしたいと思っておりますが、白川委員、そして皆様よろしいでしょうか。「はい」の声あり)では、よろしくお願いいたします。こちらの職務代理席のほうにお移りいただきたいと思っております。</p> <p>続きまして、議事録署名人の指名でございますが、今回の議事録署名につきましては、仙台市PTA協議会の高城委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p><b>議事(2) 仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画について</b></p> <p>それでは、次に移りたいと思っております。</p> <p>議事(2) 仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画についてでございます。こちらの計画はこの食育推進会議におきまして、昨年度3回の協議を重ね、今年の3月にでき上がったというものでございますが、今回、新たに委員となられた方が多くいらっしゃいますので、内容につきまして事務局からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>参事兼健康 政策課長</p>	<p>健康政策課の小林でございます。</p> <p>平成30年3月に策定しました仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画の概要について説明いたします。着座にて失礼いたします。</p> <p>本日の資料のほうに後期計画の本冊と概要版がございますが、この場では概要版に基づいて説明をさせていただきますので、お手元にご用意ください。</p> <p>まず、表紙に記載しておりますけれども、この計画の策定の経緯でございます。本市では食育基本法に基づき平成19年に仙台市食育推進計画を、平成23年には第2期計画を策定しました。</p> <p>今回、平成29年度にこれまでの取り組みの評価と課題の把握を行い、社会情勢や食環境の変化、国の食育施策の動向を踏まえまして、平成30年度から34年度までの5年間の計画期間とした後期計画を策定しております。</p> <p>では、概要版を1回お開きください。</p> <p>左側の中央でございますが、計画の推進体制と進捗管理についてでございます。仙台市食育推進会議を構成する各主体が互いに連携、協力をしながら計画を推進し、その進捗状況を年度ごとに把握、評価し、事業に反映させていくことにしております。</p> <p>この食育推進会議につきましては、食に関わるさまざまな実施主体の皆様で構成されておりますが、計画策定や、その進捗状況の評価などにご参加いただくとともに、食育推進計画の基本目標に向かって連携して食育を推進していくための課題共有の場と位置付けております。また、この取り組みを市民や関係者の皆様に広く周知する活動につなげてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>右側には、後期計画の推進に当たっての指標の一覧でございますが、こちらは後ほど説明をしたいと思います。</p> <p>左右の見開きページをお開きいただきたいと思っております。</p> <p>まず、中央のところに基本目標を掲げてございます。第2期計画の基本目標を後期計画においても引き継ぎまして、「食べる力をみんなでアップ!～みんなでおいしく楽しく食べよう～」としております。食べる力とは、本計画におきましては、食べ物を選ぶ力、食事を準備する力、組み合わせを考えて食べる力、素材本来の味がわかる力など、生きるための基本となる力を指します。食育活動を通して、お互いに食べる力を高め合うとともに、地域の食文化の伝承や食への感謝</p>

の気持ちを育むことを引き続き目標とします。

また、特にこの取り組みの中で、若い世代や子育て世代がその大切さを理解し、実践につなげ、さらに次世代に伝えるための取り組みを強化します。こちらの基本目標を達成するために、これまでの4つの推進の柱に、今回新たに食の循環や環境を意識した取り組みを加え、5つの推進の柱に沿って取り組みを進めてまいります。

推進の柱のページをご覧ください。

1つ目の柱は「食を通じた健康づくりを実践しよう」です。食育への関心を高め、健康的な食習慣を身につけることができるように情報発信し、関心を高めることや体験の場をつくるような取り組みを進めます。

2つ目の柱は「地域の食文化を伝えあおう」です。郷土食や行事食などの食文化への理解を深めるために、地域のつながりをベースにお互いに食文化を伝えあおう活動を進めます。

3つ目の柱は「地産地消をすすめよう」です。生産者、流通関係者との交流により食材への理解を深め、地産地消を推進するために、子どもたちの身近な場での地産地消の実践や体験の場をつくるような活動を進めます。

4つ目の柱は「環境を意識した食の取り組みをすすめよう」です。買い過ぎない、作り過ぎないなど、食品ロスを減らし、生ごみの循環利用など、環境に配慮した取り組みを進めるとともに、食べ物を大切に作る心を育みます。

5つ目の柱は「食品を選ぶ確かな目を持とう」です。食品の安全性についての正しい知識を習得するために、正しい情報を積極的に伝えるような取り組みを進めます。

さらに、一番右側のページは、推進の柱ごとに具体的な取り組みの方向性を示しておりますので、後ほどご覧ください。

では、この見開きの右側のページを折り返していただきます。先ほどちょっとお話ししました後期計画の推進にあたっての指標でございます。後期計画では、新たに追加した項目と目標値を変更した項目がございます。新たな項目、変更したところには赤字で【新】というふうに記載をして、ピンクの枠にしてございます。

新しい項目としましては、一番上の「食育に『関心がある』人の増加」でございます。これまで食育に「関心がある」と回答した数字を掲げていましたが、今回、国の指標に合わせ、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計としております。

また、中ほどの「適正体重の範囲にある人の増加」のところでございます。40～60歳代女性の肥満者の減少の目標値です。こちらの値は今回目標値を達成したということで、新たに13%以下というふうに設定を変更しております。

あと、真ん中より少し下段の「主食・主菜・副菜をそろえた食事をほぼ毎日食べる人の増加」、下から2段目の今回新しい柱とした食品ロスのところ「食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加」を新たな項目として加えております。

最後に、この見開きの最後の裏側のページになります。こちらには市民のライフステージごとの取り組み目標を一覧にしております。乳幼児期から高齢期までのそれぞれの目標を明確にしました。委員の皆様におかれましても、それぞれが食育推進事業の実施主体として世代に応じたさまざまな活動を展開していらっしゃると思います。食育活動を進めるにあたっては、各年代ごとの食に関する特徴や課題を捉えて効果的な取り組みを進めたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上で後期計画の概要についての説明を終わります。

<p>高澤会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から仙台市食育推進計画の概要につきましてご説明をいただきましたけれども、何かご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>ないようでございますので、それでは次の議事に移りたいと思います。</p> <p><b>議事（３）平成 29 年度食育推進事業実施状況について</b></p> <p>（３）平成 29 年度食育推進事業実施状況についてでございます。資料 2 の平成 29 年度食育推進事業取り組み事例集でございますけれども、昨年度、委員の皆様にご提供いただいた取り組み事例を事務局がまとめてくださったものでございます。本日は、こちらの事例集から 3 つほど取り組みをピックアップさせていただきます。ご紹介いただき、その後、皆様からご意見やほかの取り組みなどについてご発言をいただきたいと思っております。</p> <p>まず始めに、高校生を対象とした取り組み事例についてでございます。仙台市食生活改善推進員協議会の矢部委員、お願いいたします。</p>
<p>矢部委員</p>	<p>宮城食生活改善推進員会の矢部でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>では、宮城食生活改善推進員の取り組みについてご報告します。</p> <p>この冊子の 19 ページに載っております。ご覧ください。</p> <p>この事業は、日本食生活協会からの委託事業として実施したものです。宮城食生活改善推進員会では、地域に根差した活動を展開しており、できれば、地元の高校で実施したいと考えまして、そこで広瀬高校さんに、私たち食生活改善推進員会の活動やこの事業についての説明に 3 回、栄養士さんと訪問いたしました。2 クラスありましたので 2 回に分けてやりました。第 1 回目は平成 29 年 11 月 1 日木曜日、10 時から 12 時 50 分まで、これは 3 年生が対象です。その 1 週間置いて 29 年 11 月 7 日火曜日、10 時から 12 時 50 分、これも 3 年生でございます。1 日は学年が 30 名いましたけれども、当日は 28 名でやりました。そして 7 日が 3 年生男女 28 名、うち男子が 10 名でやりまして、広瀬高校の調理室を使用しました。</p> <p>「生活習慣病と栄養」の講話・実習を通し、朝食欠食の解消、減塩を考えた献立・調理について理解を深めてもらう目的でやりました。広瀬高校の家庭科の先生のご協力のもと、フードデザインという科目で貴重な時間を 2 日間いただきまして、本当にありがたかったです。</p> <p>始めに、朝食の摂取や減塩、食事のバランスなどについての講話を行い、実際に自分の身長と体重のバランスが適正かどうかチェックしてもらいました。その後の調理実習では、つくった豚汁の塩分測定をして、適正な塩分を体感してもらいました。</p> <p>講話の詳しい内容や調理実習の献立については事例集のとおりです。調理実習は 6 テーブルでやりまして、各テーブルに 1 人ずつの食生活改善推進員がつき、手順などについて説明しながら、生徒さんたちと一緒に調理をしました。私たちからすれば本当に孫と同じです。楽しかったです。</p> <p>講座の後、生徒さんたちからは、「野菜の切り方など丁寧に教えてもらってよかった」「手早くつくるコツがわかった」「朝食を食べないときもあったけど、これから毎日食べるようにしたい」「きょうの豚汁を飲んで、普段飲んでいる味噌汁は味が濃いと思いました。これからは薄味を心がけたい」といったいろいろな感想が寄せられました。</p> <p>今回、初めて高校生を対象とした講座を行うことになり、私たちも本当に実施することができるだろうかと不安なこともありました。が、「今回の講座を通して普段の生活を見直すきっかけとなった」という感想をたくさんいただき、講座をやってよかったと思えました。</p>

	<p>また、今回、汁物の塩分測定をしたこともあり、減塩について、「大切だと思った」という感想が一番多くありました。やはり実際に体験することで健康的な食習慣の実践につながるのではないかと思いますので、ことしもやる予定で、これから広瀬高校さんに栄養士さんと3回くらいまた足を運ぶつもりでおります。今後もこのような講座を継続して実施していきたいと思っております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。若い世代、高校生対象の食育指導ということで、減塩とか栄養のバランス、朝食についてなど、今さまざま食の問題があるわけですが、その問題に取り組まれてよく理解できたところはすばらしいなと思って伺っておりました。</p> <p>それでは次に、大人を対象としました取り組みをご紹介いただきたいと思います。みやぎ・環境とくらし・ネットワークの山形委員、よろしく願いいたします。</p>
山形委員	<p>みやぎ・環境とくらし・ネットワークの山形と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>私どもは、ご紹介あったように大人の食育講座として、「仙臺農塾」といった講座を設けております。</p> <p>最初、11ページのほうからご案内させていただきます。まず1つの取り組みとしまして、ネオニコチノイド系の農薬の危険性を広める紙芝居の上演に取り組んでおります。紙芝居2冊ほどつくりまして、今、ホームページなどでもダウンロードできるようになっております。長町紙芝居フェスティバルと田んぼの見学会を9月に行い、田んぼの生き物調査とあわせて紙芝居の上演を行いました。子どもたちがたくさん集まってくださいます、そちらであわせて紙芝居で環境に関するお話をしたことによって非常に効果があったかと思っております。あと、MELONフェスタ、環境フォーラムなどでも実施いたしました。</p> <p>次のページですが、オーガニック実行委員会といった取り組みもやっております、オーガニックについてのDVD上映、講演、トークセッションなどの取り組みも行い、11月3日から12日の間でオーガニックを紹介して、ライフスタイルに取り入れるきっかけづくりの場を提供したというものです。</p> <p>続きまして、次のページの仙臺農塾です。こちらは20代、30代の社会人対象に行っております。その回ごとにテーマとして、食材を一つ一つ取り上げて5回、最初は「ハムの選び方」をテーマで行っております、岩出山のハム工房の方をお呼びして、実際に食して、生産者と消費者との間を取り持つというか、そういった交流と勉強会を行っております。</p> <p>第6回が「出汁」で、第7回が野菜ソムリエさんに来ていただきまして、珍しい干しヤーコンなどのデザートなども提供されておりました。あと椎茸、これは原木のほうです。あとお米などを行いまして、ササニシキの親のササシグレ、その先々代に当たる亀の尾などを育てた方に実際に来ていただいて、お話を伺いました。</p> <p>現在、今期の農塾の取り組みについて検討、調整中であります。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。さまざまな方向から幅広く、食農と言ったらいいんでしょうか、食と農をつなげた形で展開されているなと思えました。</p> <p>では、3つ目の事例でございますけれども、私のほうからご紹介させていただきます。25ページ、26ページをお開きいただきたいと思います。</p> <p>まず最初に、25ページのほうからご説明させていただきたいと思っております。毎年、</p>

	<p>みやぎ県民大学といいまして、健康栄養学科では「食と健康」をテーマにして講座を開催させていただいております。ロコモティブシンドローム、通称ロコモという言葉が登場してきておりますが、やはり骨や筋肉がしっかりしていないと将来は要介護・要支援になってしまいますよ、若いうちから骨や筋肉はしっかりとつけていきましょうということで、去年は骨に焦点を当てさせていただいておりました。</p> <p>その中で一つ私のほうで担当させていただいたのが第3回目の「骨を元気にする献立を作ってみよう」ということで、その内容は、カルシウムいうと「あっ、骨ね」というふうに「骨を丈夫にするためにはカルシウムだよね」というのは大体ぴんとくるかと思うんですけども、骨というのは、さまざまなミネラル、そしてたんぱく質から成り立っています。大体半分はミネラルで、半分はたんぱく質から成り立っているということ、カルシウムだけではないのですよということをお話しました。また、カルシウムの吸収をよくするためにはビタミンDも一緒に摂らなければならない。そしてまた骨を形成するために、ビタミンKが必要なのです。そして先ほど言いましたように、たんぱく質からも成り立っている、いわゆるコラーゲンでございます。そのコラーゲンをつくるためにはビタミンCが必要ということなので、やっぱりカルシウムだけではない、さまざまなビタミンも必要、たんぱく質も必要ということなので、バランスのいい食生活をしていかなければならないのですよという話をさせていただきました。</p> <p>それから、26ページでございますけれども、「非常時に役立つ乾物の取り扱い方をマスターしよう」ということで、いつでしたか大阪での大震災がございました。やはり私たち、東日本大震災を経験しているわけですから、そこで何を学んだのかということでございます。あの当時は食べるものがない、スーパーに行けば長蛇の列ということで、食べ物がなかなか手に入らなかったという経験を通して、備蓄はしていかなければいけないだろう。そのためには何が役に立つか。そこで乾物は、備蓄するためにはもってこいだよねということで、乾物に焦点を当てさせていただいたわけでございます。乾物というと、干し椎茸とか切り干し大根とか、常日頃使っているわけですから、非常時・常時と切り離すものではないということでございます。学生たちは乾物ってそうそう使っていないので、乾物の取り扱いをしっかりしていきましょうということで、講座を開催させていただいたという経緯がございます。以上でございます。</p> <p>平成29年度の取り組み状況につきまして3つの事例をご紹介させていただきましたけれども、皆様からご質問、ご意見等、そしてまた感想などございましたらご発言を賜りたいと思います。あるいはほかに、こんなことをしてまいりましたという参考になるような取り組みなどがございましたら、この場でご紹介いただければと思います。ございませんでしょうか。</p> <p>私のほうから矢部委員にお伺いしたいなと思ったことがあったのですけれども、塩分測定をしましたということで、高校生たちは結構、塩分濃度が高かったということが理解できたというお話をいただきましたが、塩分測定をされまして、何%ぐらいだったのでしょうか。</p>
矢部委員	<p>調理にちょっと気をつけまして0.8%。薄味で、生徒さんは、何だか味がわからない、うちはもっと濃いなどと言っておりました。このくらいにしてくださいよと、若いうちからこういう薄味を食べると将来に向かって健康ですよと教えました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。何%といってもなかなかぴんとこないところがあるかなと思うのですけれども。</p>

矢部委員	塩分計ではかるのです。
高澤会長	<p>塩分計があるのですね。塩分計で0.8%。大体私たちの体液と同じぐらいの濃度になっているとおいしいという塩分濃度なわけですね。</p> <p>そのほかご意見、ご質問等ございましたら。</p> <p>ないようでございますので、それでは皆様、それぞれの分野で特徴を生かした活動をされていらっしゃると思いますので、このような事例の紹介などを今後の活動の参考にしていただいたり、連携のきっかけにさせていただけたらと思っております。市民にもっと食育への興味を持っていただけるよう、皆様方との会議でつながりを持ちながら、みんなで仙台市食育推進計画の柱を意識して食育に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p><b>(4) 平成 30 年度食育推進事業計画について</b></p> <p>それでは、続きまして議事の(4)に移りたいと思います。平成 30 年度食育推進事業計画についてでございます。資料 3 に基づきまして、皆様から平成 30 年度の新規事業や拡充事業などを中心に今年度の計画をご紹介いただきまして、皆様と共有したいと思います。私がそれぞれの分野ごとに指名させていただきますので、お一人 2 分程度を目安にご発言をお願いしたいと思います。また、資料のページ番号もあわせてお話しさせていただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは初めに、健康づくりに関する専門的な取り組みから、仙台歯科医師会の木村委員、よろしくをお願いいたします。</p>
木村委員	<p>それでは、資料 3 の 2 ページ目を開いてください。平成 30 年度食育推進事業計画の仙台歯科医師会分でございます。一番上から行きますけれども、まず、市民向けの冊子「スマイル」という小さな冊子を歯科医師会でつくっております。主に歯科医院の待合室等に置いております。歯科一般に関すること、いろいろ特集を組んで載せておりますけれども、食に関することも載っております。</p> <p>それから、今年 6 月 9 日はもう終わりましたが、「歯と口の健康週間 市民のつどい」というのを歯科医師会館でやっております。その中でも食に関する講演が幾つかございました。</p> <p>それから、いつということではなく、お願いされれば講師を派遣して、職員の方、あるいは児童、そういった方々を対象にいろいろ食に関する講話等を実施しております。</p> <p>それから、真ん中の段の 4 番目、「3 歳児カリエスフリー 85 プロジェクト」というのがございまして、これは仙台市が中心となって、あとは我々と小児科医会でやっておるわけですが、乳歯が生えるか生えないか、そこあたりから、3 歳児でカリエスのない状態をつくるためにいろいろ取り組んでいこうという中で、乳幼児からの正しい食習慣の確立に向けての啓発もやっております。</p> <p>それから 2 ページ目の一番下、「高齢者のフレイル、低栄養予防」と書いてございますけれども、口の機能が衰えますと、オーラルフレイルと申しまして口腔機能低下症、ここから全身のフレイル、機能低下につながっていくということで、まず栄養の入り口のところの機能が衰えないように、オーラルフレイルという概念が入り込んできましたので、歯科関係の業種がまずしっかり勉強しようということで、学術講演を企画してございます。</p> <p>それから 3 ページ目に移ってください。</p> <p>先ほどの再掲が一番上ですね。歯と口の健康週間 市民のつどい。その次が歯と口腔の健康づくり教室、これは若林の保健福祉センターが昔から非常に熱心でございまして、手挙げしてくれた若林区の幼稚園に我々の地域保健の委員あるい</p>

	<p>は会長も行って、それから若林区のセンターの方もいらっしやって、紙芝居でありますとか、虫歯予防、歯磨きのお話とか、そういったことをさせていただいております。</p> <p>それから最後に、各区民まつりなどで歯科関係のブースを出しまして、この間は薬剤師会と一緒にブースを出したりしてはいたけれども、医歯薬連携して区民まつり等で健康に関するブースをつくって、その中で食に関する啓発もやっついこうということでございます。</p> <p>泉区で今年やりましょうということで動き出していたんですけども、泉区民まつりというのは、夏休み花火大会みたいに結構混雑するので、邪魔になってはいけないなということで、今年は断念しましたが、泉区でもやっついければなと今考えております。</p> <p>歯科医師会の計画としてはそんなところですよ。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、宮城県栄養士会、南委員、よろしくをお願いします。</p>
南委員	<p>宮城県栄養士会の南でございます。</p> <p>宮城県栄養士会におきましては、先ほど歯科の先生からの発言にあったように、歯と口の健康週間市民のつどい等にも一緒に参加させていただきまして、「早寝・早起き・朝ごはん!!」という内容で、お子様方、あるいはお母さん方も結構たくさんおいでになっていらっしやるので、そういった方々へのいろいろな助言をさせていただいております。</p> <p>また、宮城県栄養士会で一番大きな事業といたしましては、「いい日いい汗栄養まつり」というのを毎年1回、基本的に11月に開催しております。このときには各団体様のご協力も得まして、最新の健康・栄養情報等、あるいは栄養診断、食事診断、健康・栄養相談、栄養講話など、さまざまなイベントを開催しております。昨年は口から食べるという形、お子様方が口からどのような形で食べられるのか、離乳食の状態、あるいはお年寄りがどの状態のものを食べられるかというものについて実物を展示したり、栄養相談コーナーをつくったり、他団体の皆様方のご協力を得まして、一緒に身体測定というかインボディを使いまして、その結果から、運動のサポートをしていただける方のところへ移動していただくとか、あるいは、私どものほうでこの方の栄養状態はどうかかなということでご相談に応じたりというようなさまざまなイベントを行っております。</p> <p>また、健康づくり公開講座というのを毎年行っております。これは調理実習と栄養講話を2つ合わせまして、富谷市を会場にしたり、あるいは仙台市を会場にしたり、さまざまなか所で行っております。</p> <p>あるいは、栄養ケア・ステーションというのが私どものほうにございますので、医療機関への栄養指導の対応だったり、あるいは特定保健指導だったり、市民センターとか幼稚園、児童館、福祉協議会、さまざまなか所への栄養講話、調理実習の講師を派遣させていただいております。</p> <p>次の5ページですが、仙台市の介護予防月間のところでも生き生き元気栄養相談を行っております。また、県民健康づくり公開講座を開催いたしまして、これは「いい日いい汗栄養まつり」と並行して行っておりますが、実際に東北大学のほうから機材を借りまして皆様の尿の検査をして、その場でその方のカリウム・ナトリウムのバランスを検査して差し上げて、その結果で栄養相談というようなことをさせていただいております。</p> <p>また、ヤクルトの提供によりまして、「腸活！元活！生涯いきいき！」という公開講座を行ったり、「子育て応援団」というミヤギテレビのイベントとか、シ</p>

	<p>ニアが生き生きと暮らすための情報提供だったりというようなさまざまなイベントに参加させていただいております。</p> <p>また、今年もずっと継続する予定でございますが、まだまだ大震災の後の復興が終わっていないというところもございますので、今現在、南三陸のほうに参りまして、被災された南三陸の地域の方々を対象にいたしまして、看護協会さんと一緒に栄養相談等を行っております。看護協会さんのほうは血圧を測定したりしておりますが、それと同道して栄養相談を行って、その評価も一緒に行っている。また、やりっ放しではなくて、月に1度、実際の皆様への指導に対してカンファレンスを常々行っているというような内容でございます。</p> <p>ちょっとばらばらでございますが、以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。医師会や歯科医師会など、さまざまな団体とともに食指導をされていらっしゃるというような状況でございます。</p> <p>それでは、保育所、幼稚園、学校などで子どもたちと保護者に働きかける取り組みの計画をご紹介いただきたいと思っております。保育所連合会、宮嶋委員、よろしく願いいたします。</p>
宮嶋委員	<p>保育所連合会の主な取り組みについてご報告申し上げます。</p> <p>資料の8ページのほうをご覧ください。具体的な取り組みとしまして、保育所連合会栄養士研修等をご覧ください。</p> <p>栄養士研究委員会において、毎年テーマを設けまして研究発表を実施し、成果を上げております。平成30年度は、地産地消、郷土食をテーマに研究を進めていく予定でおります。日本の伝統的な料理や味について、子どもたちと保護者に伝えていくことを狙いとして検討しております。あわせて、家庭に向けては和食に親んでもらい、家庭での食事にも取り入れてもらえるような情報や料理を掲載したリーフレットなどを配布する予定でおります。</p> <p>保育所連合会栄養士研究会では、毎年、栄養士の資質向上のための研修会を実施しております。平成30年度は、小児の肥満、それから子どもの体の発達、機能の発達と食行動についてというテーマで講話を受ける予定でおります。乳幼児期の肥満と保育所での対応、それから乳幼児期の発達、食行動について学び、各保育所で一人一人に合わせた支援と食事の提供に対応するための研修としております。</p> <p>次に、保育所連合会給食担当者研修会です。調理実習は昨年度に引き続き、毎日の給食で薄味でもおいしいと感じられるような「うす味でおいしい子どもの食事」というテーマで内容を考えておりました、実施してまいります。生活習慣病の予防と乳幼児期からの健康的な食習慣の形成のために、先ほどもお話しありましたように、食塩の摂取量について十分な配慮が必要というふうに考えておりました、実習した内容をそれぞれの保育園で給食に取り入れて、子どもたちへの健康な食事の提供につなげていきたいなというふうに思っております。</p> <p>講話のほうは、職員間での連携をうまく図って、子どもたちに安全でおいしい食事を届けるための職場内のコミュニケーションについてという内容で研修を実施していく予定でおります。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、続きまして、私立幼稚園連合会、沢田石委員、よろしく願いいたします。</p>

<p>沢田石委員</p>	<p>幼稚園連合会は、全体的な催し物などがなかなか開けませんので、各園の事情に合わせて行っています。</p> <p>そこで、真ん中にある「食べることが楽しくなる食育」、教諭・職員を対象とした、初めてこの食育推進会議に出た職員が、幼稚園でも全体的な取り組みをしなければいけないのではないかとということで、今回初めて幼稚園の先生たちに集まっていたいで全体的な研修会をすることになりました。各園それぞれにいろいろな催し物の計画はしているのですけれども、それが全体的なものになっていないという実情を踏まえて、まず3園に各取り組みを話題提供してもらうこと、それから仙台市食育推進会議のほうから政策課の浅野様に来ていただいて、「食育ってなあに」という本当に基本編から始めていきたいと思っています。幼稚園自体が給食だったり、あるいはお弁当だったりという中で、なかなか食育に対しては取り組めてこなかったというのが実情なので、今後この会議に出席したことを皆さんに伝えながら、全体的な動きにしていきたいと思います。</p> <p>そして2番目に「仙私幼通信」に掲載するというのが書いてあるのですがけれども、これは年2回発行している通信に、この会議で私が学んだことを一般の先生たちにお知らせするという形での報告になっています。</p> <p>1番目に戻りまして、「給食試食会と食事のバランスについての講座」というのが書いてありますけれども、これはうちの園のことで申せば、子育て支援に来ていらっしゃる0・1・2歳児の親子、大体4組から8組ぐらいに対して簡単な食育のミニ講話をするということになっています。母乳で育ったりミルクで育ったりしているお子さんたちが最初につまずく離乳食、実際に食べていただいて疑問とか、実際につくった離乳食を見て味わいながら、現場での取り組みをお母様たちにさせていただいて、離乳食をつくることは怖くないよというような取り組みをしています。1・2歳児食についても咀嚼がなかなかうまくいかなかったり、大きな形のものを食べられなかったりという保護者を対象としたミニ講話も今後とも必要だという考えのもとに行っていきたいと思います。</p> <p>後半の部分で「食べることが楽しくなる食育」と書いてありますが、これも各園でさまざまな取り組みをしていますが、保護者の方全員に試食会というわけにはいかないのです、給食の日に保護者に来ていただいて、子どもたちと同じものを食べ、その場を共有していただいて、食べものについての会話をしながら、食べることが楽しくなる、そして食べたものの感想を言い合うという場を提供しようとして去年から行っています。</p> <p>このような取り組みですけれども、各園、実情はさまざまなので、うちの園をお話ししましたが、これから幼稚園自体も食育に対する取り組みはますますやっていかなければならないこと、自分の体を知った上で何を食べるかという、本当に私たちが取り組まなければいけない問題は山積みですけれども、今後ともこのような活動を通して幼稚園自体の力もアップしていきたいと考えております。</p>
<p>高澤会長</p>	<p>ありがとうございました。保育園にしても幼稚園にしても、小さい子どもたちの食というのは大事でありまして、小さいころからの食習慣ですね。最近の若い世代の母親は離乳食の作り方を知らないということで、温めるだけ、瓶詰め、缶詰などを使えばいいでしょうというような母親もいたりするわけですし、小さいころからもう既に化学的な・人工的な味に慣らされていくのかなと危惧しているところが自分の中にはありまして、今の取り組みというのは非常にいいなと思って伺っておりました。</p> <p>それでは、続きましてPTA協議会、高城委員、よろしく願いいたします。</p>

高城委員	<p>仙台市PTA協議会の取り組みを報告させていただきます。</p> <p>仙台市PTA協議会自体の取り組みというよりも、各小中学校のPTA活動のほうで給食試食会ですとか、その際に栄養士さんをお呼びして講話をしていただくなど、PTA行事として行っていることのほうが多いです。</p> <p>あとは、地域行事のほうで、実際に田植えですとか稲刈りの農業体験を通じて食べ物の大切さなどを学ぶような機会を地域の方にいただいております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次に、地域に根差して幅広い年代の食育を続けていらっしゃる食生活改善推進協議会の矢部委員、よろしく願いいたします。</p>
矢部委員	<p>では、平成30年度の食育推進事業を発表いたします。</p> <p>10ページ、1の食育の日、宮城地区まつりの参加ということで、このおまつりは盛大なもので十何万人集まるといふ、去年は雨でひどかったですけれども、ことしは晴れるように、みんなで頑張ってやりたいなと思っています。地産地消の野菜を使って、小エビ、スキムミルクなどカルシウムたっぷりのお好み焼きを宮城食改が400枚くらい焼いて販売します。</p> <p>それから、広瀬高校もまだ学校と交渉しておりませんので、近々行かなくてはならないと思っております。</p> <p>また、仙台市の3つのブロックの集まりがこの11日にあるのです。秋保、泉と3ブロックが集まって。このとき、ちゃんと計画を実施できますかとかいろいろご相談したいと思っておりますので、ただ載せていただいております。</p> <p>それから、11ページになりまして、今年初めて「やさしい在宅介護食教室」が県からの委託のお話がありまして、まず宮城食改員が初めてなもので、食改員が勉強しないでは地域のお年寄りにご指導できないなと思ひまして、今年は宮城食改が勉強いたします。</p> <p>それから、今年も親子の食育教室を実施いたします。食育の5つの力、これは小学生には非常に大切なことですので、これをよく学んでいただきたいと思っております。</p> <p>また、宮城食改は、お隣さん、お向かいさんで、お味噌汁をはからせてくださいということで、いつも60軒くらい回っているんですね、塩分計を持って。だけど今あまりお味噌汁を夜は飲まないですという、お年寄りもいまして、1日1回でやっておりますというご意見が聞かれまして、塩分もずっと低くなりまして、皆さん健康に気をつけていらっしゃると感じました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。今年度もぜひ高校生対象の食育の取り組みを継続的にしていただけるとよろしいかと思ひます。また、塩分のことも出てまいりましたけれども、宮城県という、男性も女性も五本の指に入るのですよね。ぜひともこれも継続的にやっていただけたらと思ひます。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、消費者の方々を対象とした健康で安全な食生活や地産地消などの取り組みをご紹介いただきたいと思います。宮城県生活協同組合連合会の渡辺委員、よろしく願いいたします。</p>
渡辺委員	<p>宮城県生協連の渡辺でございます。県生協連の会員団体でありますみやぎ生協の取り組みから2点ほどご報告したいと思います。お手元の資料の15ページから16ページをご覧くださいと思います。</p> <p>まず、16ページのほうから。本年度新たに設けられました推進の柱の4のところ、「環境を意識した食の取り組みをすすめよう」から食品ロスの削減の取り組み</p>

	<p>みについて、コープフードバンクの取り組みをご報告したいと思います。</p> <p>まず、安全に食べられるにもかかわらずに廃棄されている食べ物というのは、年間 500 万から 900 万トン以上にも上っているのが現状と言われています。その中で、先ほど会長からもお話しありました貧困世帯というのも年々増加しているわけでありまして、大変な生活を強いられている方たちに対しての支援を含めまして、コープフードバンクでは、やむなく廃棄されてしまう食品を無償で各企業から提供を受けて、必要とする福祉分野の施設、それから団体に必要な食品を寄贈して、食べられる食品を有効に活用する活動になっております。一口で言えば「食べ物を大切に」の思いでつながっている支援の輪の取り組みかと思えます。</p> <p>平成 29 年の仙台市との連携の取り組みも先ほどご報告の中に入っておりますけれども、この活動は東北全体に広がっておりまして、現在、若干古い数字ですけれども、提供企業約 90 社、受け入れ施設が 282 団体と支援の輪が広がっております。それから施設・団体への提供は 154 トンほど 16 年度ではございまして、年々増加しております。</p> <p>一つ、食品寄贈企業からの感想ですけれども、企業はどうしても廃棄ロスというのは致し方ない部分があるというのがこの団体というか組織の中でも意識がついておりますけれども、とにかく無駄をなくすのだという意識がこの企業の人たちにも根づいて広がっているという報告もいただいております。</p> <p>それからもう一つ 15 ページのところですね。推進の柱の③のところですね。地場の原料を使用した加工品の開発ということでございます。みやぎ生協の「古今東北（ここんとうほく）」の活動について若干報告したいと思います。</p> <p>古今東北のブランドですけれども、震災復興と地域振興を目的に立ち上がったブランドで、東北 6 県のえりすぐりの食材とか加工品などを開発、そして販売、販路拡大まで行っております。東北 6 県から集めた食材を商品として開発して、産地とか地場産の復興、まだ復興が未途上であります販路拡大というのを大きな目的としております。また、地元で愛されてきた伝統的な食文化の再発見もこの商品開発では行われたり、あと多彩な文化で生まれる新たな食の楽しみを提案できるというのも大きな特徴の一つであります。こちらは全国の生協はもちろんのことですけれども、販路は広く、首都圏のデパート、それから現在はネットショップでも販売しております。現在一応 160 アイテムございまして、2018 年度は 200 アイテムを目指しまして、東北の地場産品をどんどん商品化して、東北に元気をつけようという活動を継続的に今年度も行っております。</p> <p>報告は以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、続きまして、みやぎ・環境と暮らし・ネットワーク、山形委員、よろしく願いいたします。</p>
山形委員	<p>みやぎ・環境と暮らし・ネットワーク、30 年度、仙臺農塾を引き続き検討しております。先ほども申しましたが、生産者と消費者をつないで、あと生産者のご苦労とかそういったものをご紹介いただいて、つくる過程での知識などを学ぼうという形で行っております。こちらが今回は年 4 回程度を考えております。</p> <p>続きまして、次の 18 ページ、オーガニック・ウィーク・センダイ、こちらも引き続き行っていく予定です。オーガニック製品などをもっと広めて皆さんに知ってもらい、食の安全を考えつつ取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>こちら、「2017 年」となっておりますが、「2018 年」の誤りでした。申しわけございません。</p> <p>あと、ネオニコチノイド系農薬関連、こちらも引き続き紙芝居などを上演しま</p>

	<p>して、子どもたちにもわかるような普及、お伝えするような形をとっていきたいと思います。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次に、大学での食育の取り組みについてご紹介いただきたいと思います。宮城大学の白川委員、よろしく願いいたします。</p>
白川委員	<p>宮城大学です。</p> <p>資料の 23 ページをお開きいただきたいと思います。</p> <p>まず、上から 1 と 2 につきまして前年度と大きな変更はございませんが、主に大学生に向けて、また 1 としたたまに高校生に対しても食育の授業を通して食に関する知識を提供して意識を高めてもらうような心がけを行っております。また、次世代を担う大学生に対しまして、自身の食生活を見直して改善することを促すことを行っております。</p> <p>また、3 番目としまして、みやぎ生協様にいつもお世話になっているのですが、食育に関する講話・講演等を行っております。9 月に糖質制限に関する講演を行わせていただく予定にしております。ただし、糖質制限は、日本型食生活の推進とか新米のおいしさというのもやはり大切にしてほしいというところがございますので、単に糖質制限を推奨するというのではなく、正しい知識を皆様に持っていただくということを目的にしております。</p> <p>また、4 番目といたしまして、幼稚園・保育園、小・中・高校の教員の皆様を対象といたしまして、本学が開講しております教員免許状更新講習で食育の講座を設けておりまして、そこで先生方が教育の現場で実践していただくために役に立つ食育の知識や指導例などを説明・紹介させていただいております。今年も継続させていただきます。</p> <p>また次に、①-A-5 というところで、大学生の自主的な食育活動を推進するために、本学に「@グリーン」という学生サークルがございまして、森本教授の指導のもとで、本学農場で栽培した野菜や寄付食材などを利用いたしまして、加工室で学生が自主的にスープやパン、サラダなどをつくって、大体月に 1 回程度、無料で朝ごはんを提供し、学生や教員も含めて皆さんに食べていただくということを活動として行っております。</p> <p>さらに、一番下のところ、高齢者に対する食の取り組みの推進や、若いうちからのサルコペニア予防を目指しまして、一般市民の方に向けて、みやぎ生協様の広報誌や、宮城県の公衆衛生協会の機関誌などに食育に関する記事を掲載させていただきまして、食育の推進にかかわる情報提供や啓発活動などを継続して行わせていただいております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは最後に、私のほうからもご報告申し上げたいと思います。仙台白百合女子大学と書かれたところ、21、22 ページにかけてでございます。</p> <p>すみません、昨年度の事業名が載っておりました。1 番目のところ、みやぎ県民大学講座、これは「ロコモに負けないからだづくり」でございます。この間の土曜日、6 月 30 日に第 1 回、第 2 回が開催されまして、最初に第 1 回目、私が担当させていただいたのですけれども、去年は骨、ことしは筋肉ということで、筋肉づくりのための献立実習。要は、たんぱく質というものは体の組織をつくるということで、1 日 50 グラムの推奨量の 7 割、8 割方を 1 食分で摂ってしまうというような献立をつくって、皆さんに実習していただきました。これは一般の方々対象で、実習なので 25 名という定員枠でございました。</p>

たんぱく質はアミノ酸からできているわけですが、そのアミノ酸の中でも食事から摂らなければならないという必須アミノ酸、これがしっかり含まれていないといい体づくりもできないのです。何か一つ少なかったりすると十分に体の中で組織が形成されないということになりますので、こういったたんぱく質の話をしていただいて、さらには実習もさせていただいたという経緯がございます。もう既にこれは終了してございます。

それから、推進の柱②で「地域の食文化を伝えあおう」という、正月料理における嗜好性と伝承性に関する実態調査、大学生 350 名を対象に正月料理について調査をさせていただきました。今、結果まとめに入っているところでございますけれども、「正月料理は好きですか」というと、8割以上は「好きです」と回答してくれているのですが、実際に「正月にどんなものを食べていますか」というと、ほとんどが餅料理です。お雑煮、あるいはあんこ餅とか納豆餅とか、そういったお餅系はよく食べるのですが、お節料理は食べていない。黒豆・数の子・田作り、これは正月三つ肴と言われるものですが、ほとんど食べていないのです。「嫌いなお節料理は何ですか」というと数の子が第一に挙げられました。それから田作りもうちでは食べていないということなので、私たちが次の世代に伝え、次の世代の人たちがさらに次の世代に伝えていくためには、こうやってお正月料理って食べるのだよ、それには意味があるよというところも伝えていかなければならないところでございます。今回の調査、後々結果報告をしたいなと思っておりますけれども、じいちゃん、ばあちゃんが一緒に家族は伝わっていく。ところが核家族ですと、大体食べないとかつくらない世帯が多くなっているという状況にあります。

それから、「地産地消をすすめよう」ですが、学生たちに畑仕事をさせまして野菜づくりをさせています。栄養士、管理栄養士を養成していますけれども、「食ありき」から始まっちゃうのですよ。だからその前の段階、農塾の方々がいろいろ活動されている、育てるということを知らない。ですから、育てるところからやっていかなければならないということで、農園で畑作業をさせて、できた農作物を収穫して、その喜びを知ってもらって、採れたもので何をつくると。そこから献立を立て、そして作ったものをおいしいねという、非常にぜいたくな活動だなと自分では思っているところであります。

最後に、地元野菜を取り入れた弁当考案ということで、これも既に終了しております。昨年からの献立を立てさせて、献立の内容は旬のものを食材として使います。今回のテーマはお花見弁当でございましたので、春の食材って何というところで調査をさせて、春の食材を使った献立を立てさせ、そしてお弁当の献立ができ上がり、それを今度は業者さんと協働事業をやって、業者さんのほうでつくってもらって、一般の方々に体に優しいお弁当ですよということで販売をさせていただきました。

もう一つチラシを僭越ながらお配りさせていただいた、こちらでございます。こちらは地元の果実を使ってのゼリーということで、柴田町の柚子、それから山元町のいちご、利府町の梨、この3種類のゼリーをゼライスさんでつくっていただいて、それを40～50名の学生たちが官能試験をしまして、酸味度はどうかとか口当たりはどうか、再三にわたりまして意見を述べまして、何度も作り直しをしていただきながら完成したという経緯がございます。藤崎さんとゼライスさんと本学が産学連携、協働事業を行いまして、お中元の品ということになっております。実はこれが非常に売れ行きがよくて、500セットを目標にしていたのですが、実はそれ以上売ってしまったということでもうストップがかかってしまいましたので、皆様にはご紹介だけということになります。以上になります。

それでは、続きまして、仙台市の事業計画についてご紹介をいただきたいと思

	<p>います。まず、子供未来局からお願いいたします。</p>
子供未来局長	<p>それでは、私からは、子供未来局関連の取り組みについてご紹介いたします。資料3の25ページから28ページに子供未来局関連の取り組みがございますが、このうちから数点ご紹介いたします。</p> <p>初めに、25ページの中段、具体的な取り組み①-B-2でございますが、この3つ目に記載しております親子調理活動でございます。こちらは親子ともに食への関心を高めるために、保育参観などの機会を利用して親子での食事づくりを実施するもので、毎年、子どもたちからも保護者からも楽しみにしていただいているところでございます。</p> <p>次に、26ページの中段の具体的な取り組み①-B-8をご覧ください。</p> <p>妊産婦や乳幼児の食事について、各区保健福祉センターや総合支所の栄養士や保健指導の専門職が、母子健康手帳交付説明会や育児教室、離乳食教室、幼児健診の機会を捉えて、妊産婦や乳幼児の健康的な食生活についての啓発や個別相談に応じております。</p> <p>続きまして、最後になりますが、28ページの上段の具体的な取り組み②-A-1をご覧ください。</p> <p>保育所給食における食文化の継承でございます。昨年度は仙台市保育所連合会の取り組みと呼応して、日本の伝統的な食文化である和食のよさを伝えていくため、各保育所において和食を中心とした伝統食の提供や出汁を味わうことをテーマにした食育活動などを行ったところでございます。</p> <p>今年度も保育所給食に行事食や郷土料理、旬の食材や地域特産の食材を取り入れたり、行事食等の由来についてお伝えしたりしながら、子どもたちやその保護者が地域の食文化に触れる機会をつくってまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、経済局、よろしくをお願いいたします。</p>
経済局長（横山農林部長代理出席）	<p>経済局の取り組みにつきましては、資料の30ページから31ページにかけてでございます。</p> <p>経済局では、農産物の生産振興ですとか地産地消の推進に取り組んでおります。また、生鮮食料品の流通拠点である中央卸売市場を所管しているのも経済局でございます。そして今、お手元の資料に掲載しているような事業に取り組んでいるわけですが、まず30ページでございます。推進の柱の③「地産地消をすすめる」というジャンルでの取り組みでございますが、仙台産農産物表示マーク、愛称「ここでちゃん」と称しておりますけれども、これを活用しました地産地消のPR、生産現場の見学や栽培体験を行う地産地消推進サポーター事業というものも行っております。</p> <p>それから、中央卸売市場では、NHKのテレビ番組「もりすた！」の中で週に1回、月曜日の11時半ごろから「もりすた！キッチン」というコーナーで中央卸売市場の中の卸売業者さんが出演しまして、旬の食材とかおいしい食べ方などを紹介していただいております。</p> <p>それから、食品流通の仕組みですとか、中央卸売市場の役割について理解を深めていただけますように、小学生の方とか一般市民の方の見学受け入れのほか、夏休み期間中に小学生とその親御さんを対象にしました夏休み親子市場見学会を開催しているところでございます。</p> <p>次に③-B-2でございますけれども、仙台市旬の香り市と称しまして、市役</p>

	<p>所の向かいの市民広場の東の端のほうを利用して、月2回ぐらい開催しております。それから若林区にありますせんだい農業園芸センターの中で収穫まつりを開催しまして、地場産の食材とか地産地消に関しまして市民の皆様にご理解いただけるような機会づくりに努めているところでございます。</p> <p>それから、次のページに参りまして31ページでございます。レクリエーション農園ですとか学童農園の設置の促進を行っております。補助金を出して開設の支援をすることにより児童生徒の皆さんの農業体験を促しまして、農業と触れ合う機会の提供を行っているところでございます。</p> <p>続いて、③-B-4でございます。地産地消推進サポーター事業は先ほど申したとおりでございます。</p> <p>農食ビジネスモデル構築事業でございますが、これは新規事業としておりますが、同じような趣旨の取り組みは以前から行っております。生産地と消費地が近いという仙台市の特徴を生かしました流通モデルを構築して、枝豆を初めとした地元仙台産の新鮮な農産物の消費拡大を図る取り組みでございます。具体的にやっていることは、「今朝採り枝豆」と称しまして、主に若林区の六郷とか七郷の畑で朝に採れました枝豆をその日のうちに市中心部、国分町とか仙台駅前、一番町あたりの飲食店で提供していただくという事業を行っております。昨年度は76の飲食店さんにご協力いただきましたけれども、ことしは100店舗以上での提供を目指して取り組んでいるところでございます。</p> <p>それから、中央卸売市場におきましては、保育所、小学校などでのサンマ焼き教室、さらに中学校ではサンマ料理教室というものを行って、生産者と市場関係者が触れ合う機会をつくっているところでございます。それから生産者の方とか市場関係者が直接学校を訪問しまして、農産物などの生産・流通現場について子どもたちに直接お話をし、食の大切さについて学んでいただく出前授業なども行っているところでございます。</p> <p>それから一番下、放射性物質の検査などで食品の安全性に関する情報をお知らせしております。経済局所管分については林産物でございますので、林産物というのはいわば椎茸でございます。椎茸の放射性検査を行っているというものでございます。</p> <p>経済局では、以上のような事業によりまして、子どもから大人の方まで広く食への関心を高めていただけますよう取り組んでいるところでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは教育局、よろしくお願いいたします。</p>
教育長	<p>教育局の事業のうち、2点ご紹介いたします。</p> <p>資料32ページ中ほどの①-B-3の1番目をご覧ください。</p> <p>初めに、仙台市健やかな体の育成プランの取り組みでございます。このプランは平成29年度から5年間を計画期間としておりまして、児童生徒が望ましい食習慣、運動習慣、生活習慣を身につけ、毎日の生活を健康的に過ごすことができるようにということで設定しております。施策の一つとして健康教育推進校の指定というものがございまして、健康推進校に指定された学校では3年間、学校体育、食育、学校保健の分野で学校全体での取り組みを進めております。平成30年度は小学校3校、中学校2校を指定しておりまして、効果的な指導方法の工夫、改善、家庭と地域との連携、こういった取り組みを進めておりまして、この取り組みの成果につきましては研究会とか研修会、そういった場で発表するとともに、ほかの学校でも取り組みしやすいようにさまざま公表してございます。</p>

	<p>2つ目の事業でございますが、次の33ページをご覧ください。</p> <p>真ん中ほどの具体的な取り組みの①-B-9でございます。小学生とその保護者を対象にした親子食育講座です。この事業は、社会学級やPTAなどの協力によりまして、小学校や市民センターなどを会場に食育講座を実施するものでございます。地域ならではの伝統食や親子でつくる朝食づくりなどをテーマとした調理実習、講話。例年、各団体においてさまざま内容を取り上げておりまして、参加者からは、家庭で食について考えるよい機会となったという声が多く寄せられています。昨年度は42校で実施され、今年度は2つ増えまして44校で事業を予定しているところでございます。</p> <p>教育委員会からは以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後に健康福祉局、よろしくお願いいたします。</p>
健康福祉局長	<p>私からは、健康福祉局、それから各区の取り組みに加えまして、食品ロスの削減という取り組みに関連して仙台市の環境局の事業計画につきまして、合わせて4点ご紹介をさせていただければと思っております。</p> <p>まず、健康福祉局各区の関係でございます。資料の45ページの上から3番目、事業番号で言えば5番ですが、常備菜レシピ作成事業でございます。これは青葉区の保健福祉センターにおきまして今年新規に取り組んでいく事業でございます。一般市民の方、地域で活動する栄養士、主任児童員の方などをメンバーとして実行委員会を立ち上げまして、どなたでも手軽につくれてアレンジできる、栄養バランスにすぐれたレシピ集の作成を目指すというものでございます。市民の方、それから関係機関が連携し、より地域に根差した、住民の皆様主体の取り組みとして進めるもので、来年の2月にレシピ集を完成させることを目指して取り組んでおります。その中途におきましても、10月の市民センターまつりにおきまして、パネル展示などによって取り組み状況について来場者にご覧いただくというような取り組みも予定いたしているところでございます。</p> <p>資料をさかのぼっていただきまして、36ページでございます。</p> <p>36ページの一番上、「仙台食育推進隊」の登録推進と情報発信でございます。これは新規ではございませんが、強化をしていきたいと考えております。この事業は、地域の中でさまざま食育活動を行っておられる団体の方や個人の方に食育推進隊としてご登録をいただきまして、本市のホームページを通じてその活動を市民の皆様へ発信をしていくことで、食育活動の実施や参加を希望する市民の方とつながり、さらには活動を広げる、そういうことを狙いとした事業でございます。今年度まずホームページをリニューアルいたしまして、それぞれの活動の様子を掲載させていただきました。未登録の団体の方も含めまして、食育サポーター交流会を年2回開催いたしまして、情報交換、課題の共有、登録推進へとつなげてまいりたいというふうに思っております。</p> <p>ここで、お手元にお配りをいたしております「推進隊を募集しています」という水色のチラシをご覧ください。裏面に登録の申込書がついています。仙台市のホームページから申込書をダウンロードすることも可能でございます。ぜひ周りにお声がけをいただきまして、食育推進隊の登録の推進にご協力をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、29ページでございます。こちらは仙台市の環境局の取り組みでございます。</p> <p>1つ目でございますが、モッタイナイキッチン事業でございます。食材を無駄にしないというモッタイナイ精神を盛り上げようということで、今年の9月にウ</p>

	<p>ウェブサイトを立ち上げております。普段は捨ててしまう食材の活用や、一度つくったお料理をリメイクして新たな料理にするレシピなどを市民の皆様にご投稿していただくこと、地産地消や伝統の食文化、生産者のお声などの情報を掲載し、家庭から排出をされる生ごみや食品ロスの削減、そういった気運の情勢を図っていく取り組みでございます。</p> <p>2つ目でございますが、フードバンク・フードドライブの事業でございます。販売には至らないものの品質には問題がないという食品をメーカーさん等から引き取りまして、先ほどもご説明ありましたけれども、福祉施設でありますとか、生活に困窮されておられる方などへ無償提供する活動、フードバンク活動を行っておられる県内の複数の団体と連携をいたしまして、その活動の状況でありますとか、例えば消費期限と賞味期限の違いなどの情報を発信していくというような活動。それから環境関連のイベントにおきまして、市民の方々に実際に家庭で未使用となっている食品を持ち寄っていただくフードドライブを実践する機会などを設けていくことによりまして、フードバンク・フードドライブ事業についての啓発を進めていくというふうなことで予定をいたしております。</p> <p>私からは以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。仙台食育推進隊、これは団体さんでも個人でも申し込みは大丈夫でございますか。（「どちらでも可能でございます」の声あり）ありがとうございます。</p> <p>それではここで市民公募委員のお二人から、平成29年度の取り組み事例ですとか、平成30年度食育推進事業計画を聞かれましてのご感想、またご自分たちの取り組みのご紹介などを含めましてご意見などを伺いたいと思います。それでは初めに、高塚委員、よろしく願いいたします。</p>
高塚委員	<p>本日の話を聞きまして、私が思っていた以上に仙台市では食育につきましましてさまざまな取り組みをしていることがわかりました。</p> <p>私自身は、食育の中でも子どもと食育についての分野に特に興味があります。子どもと食育といいましても、現在の食の選択肢の多さや取り巻く環境など、さまざまな問題があると思います。私自身、以前、栄養士の仕事をしていたことを生かし、また、子育てをしている母としまして、家庭からも食育についての提案や何かお役に立てることがあればと思いました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは中村委員、よろしく願いいたします。</p>
中村委員	<p>震災の年まで郡山市の食育の推進委員を務めさせていただいていました。今、皆様の話を伺いまして、やはり仙台は都会だなと感じました。非常に官民それから教育機関との連携がなされておまして、先進的な取り組みを皆様されているなど伺っておりました。特に興味を持ちましたのが、青葉区保健福祉センターさんの常備菜レシピの作成事業ですとか、あとは私立幼稚園連合会さんの「食べることが楽しくなる食育」というフレーズが非常に心に響きました。</p> <p>私12年ほど食の仕事をしておまして、地域のお母様を中心にお料理をずっと教えております。食育の講座などもさせていただいているのですが、若いお母さんたちに『食育』というフレーズを聞いて何を思いますか』ということ必ず最初に聞くと、やはり拒否反応を示される方が非常に多い。それはどういうことかといいますと、フルタイムで働いているお母さんですとか、あとは小さいお子さんがたくさんいらっしゃる非常に忙しい状況のお母さんですとか、現実的</p>

	<p>に、全て手づくりをしたいとは思っているんだけど、お料理はあまり得意ではなくて自分は母親としてだめなのではないかという罪悪感を抱いている方が非常に多い。あとは、若いお母さんたちがどこから情報をとっているのだということになりますと、皆様のように専門家の方のお知り合いがいるわけではありませんので、ほとんどスマホから情報をとっていらっしゃるんですね。</p> <p>私の活動で、福島県で「たべてく。」という地域食育団体をやっております、これは料理研究家さん初め管理栄養士さんとか地域の農業女子の方、それからマクロビオティック研究家さん、ローフードの講師とか地産地消の地元の飲食店のシェフとか、そういう方たちと連携をとりまして、子どもたちに実践可能な料理を教えていこうという取り組みをしております。子ども食堂の取り組みなども長くさせていただいていたのですが、子ども食堂で貧困家庭の方、それからシングル家庭の方、フルタイムで忙しいお母さんたちの家庭の方、そういうお子さんに食を通じて愛を大人から与えていこうという活動だというふうに思っております。じゃここからどういうふうに派生させていくということを考えましたときに、やはり子どもたちがお料理をつくれるようにしてあげると。これは愛を与えるという方法を学ぶ場であるというふうにみんなで話して「たべてく。」という活動を始めました。今、料理教室をやらせたいという方が何名かいらっちゃって、こちらでもそういった活動に何か寄与できることがあれば全力でやらせていただきたいなと感じております。</p> <p>本当に仙台市の活動がすばらしくて私、感激いたしました。本日はありがとうございました。</p>
高澤会長	<p>ぜひ仙台でもご活躍いただきたいと思います。</p> <p>今、中村委員から出てきました常備菜レシピ集ですが、これは配布とかはございますか、でき上がったら。</p>
青葉区家庭健康課長	<p>青葉区家庭健康課でございます。ご意見いただき、ありがとうございます。</p> <p>実際にレシピ集をつくって印刷をかけるのですけれども、こういった形かはこれから検討ですが、いずれホームページに掲載することも考えていきたいなと思っております。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほかご意見、ご質問などございましたらお願いしたいと思いますが。</p> <p>経済局さんのほうで、収穫まつりをさせていただきますということですが、そのお知らせは皆さんのところにも行きますか。私ちょっと行きたいなと思ったものですから。</p>
経済局長（横山農林部長代理出席）	<p>ありがとうございます。農食ビジネス推進室長が来ておりますので、今の説明をさせていただきます。</p>
農政企画課農食ビジネス推進室長（代理出席）	<p>農政企画課農食ビジネス推進室長の嶋田と申します。</p> <p>収穫まつりににつきましては、仙台農業園芸センターと仙台市の実行委員会で実施するイベントになっておりまして、広報については仙台農業園芸センターの運営事業者のほうからホームページを通じて主にPRが行われます。</p> <p>チラシにつきましては、できましたら各区役所とか市民センターなどに置くという形で広報させていただいております。</p>

経済局長（横山農林部長代理出席）	チラシにつきましては、この会議の委員の皆様にもお知らせさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
高澤会長	ありがとうございます。 そのほかございますでしょうか。中村委員、どうぞ。
中村委員	宮城県生活協同組合連合会さんにぜひお聞きしたいなと思ひまして。私もよく利用させていただくのですが、古今東北の商品というのはどのような視点でどういった方が開発されているのでしょうか。
高澤会長	渡辺委員、ご回答よろしくお願いいたします。
渡辺委員	先ほども若干申し上げましたが、東日本大震災の後にこちらのブランドが立ち上がりまして、まず初めに宮城県の県南のほうで、塩害で使えなくなった田んぼとかを利用して菜の花を咲かせて油をとったり、それからソバを植えたりということで、震災の影響を受けた土地をどうにか東北の復興に役立てないかという発想をもとにこのブランドが立ち上がったわけです。 さまざまなプロジェクトがございまして、そのプロジェクトをもとに商品開発を行って、まず初めに宮城県の商品をつくり上げたということが震災以降、12年ぐらいから始まりまして、現在は東北地方の地場産品を加工して、商品化による新たな東北地方全体の復興応援という形につながっております。
高澤会長	よろしいでしょうか。ありがとうございました。 そのほかございませんでしょうか。 <b>（５）その他</b> それでは、続きまして議事の（５）その他の項目でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。 ないようでございますので、それでは事務局のほうから何かございますでしょうか。
健康政策課長	今年度も、きょうの資料にも使わせていただきました事例集の作成を予定しております。後日、正式に依頼文書を送付させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。 この事例集、写真なども盛り込みながら、実際の活動の様子が大変わかりやすいものとなっておりますので、ぜひ今から記録を残すということを念頭に取り組みを進めていただければと思います。 もう1点でございますが、平成30年度の第2回食育推進会議の日程でございます。来年1月下旬から2月上旬をめどに開催予定でございます。ご案内をまたお送りいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。
高澤会長	ありがとうございました。 ほかにございませんでしょうか。ないようでございますので、以上で議事を終了させていただきます。 皆様からさまざまなご意見を頂戴いたしまして、まことにありがとうございました。 では、事務局に進行を引き継ぎたいと思います。

進行	<p>&lt; 6. 閉会 &gt;          委員の皆様、長時間にわたるご議論ありがとうございました。          以上をもちまして平成 30 年度第 1 回仙台市食育推進会議を閉会いたします。          ありがとうございました。</p>
	—了—

平成 30 年      月      日

署名委員

印